

特別委員会内施設での二次調査結果

特別委員会内二次調査協力施設

大阪大学、大阪市立大学、岡山大学、
刈谷豊田総合病院、神戸大学、新潟大学、
日本医科大学、藤田保健衛生大学、山形大学

対象

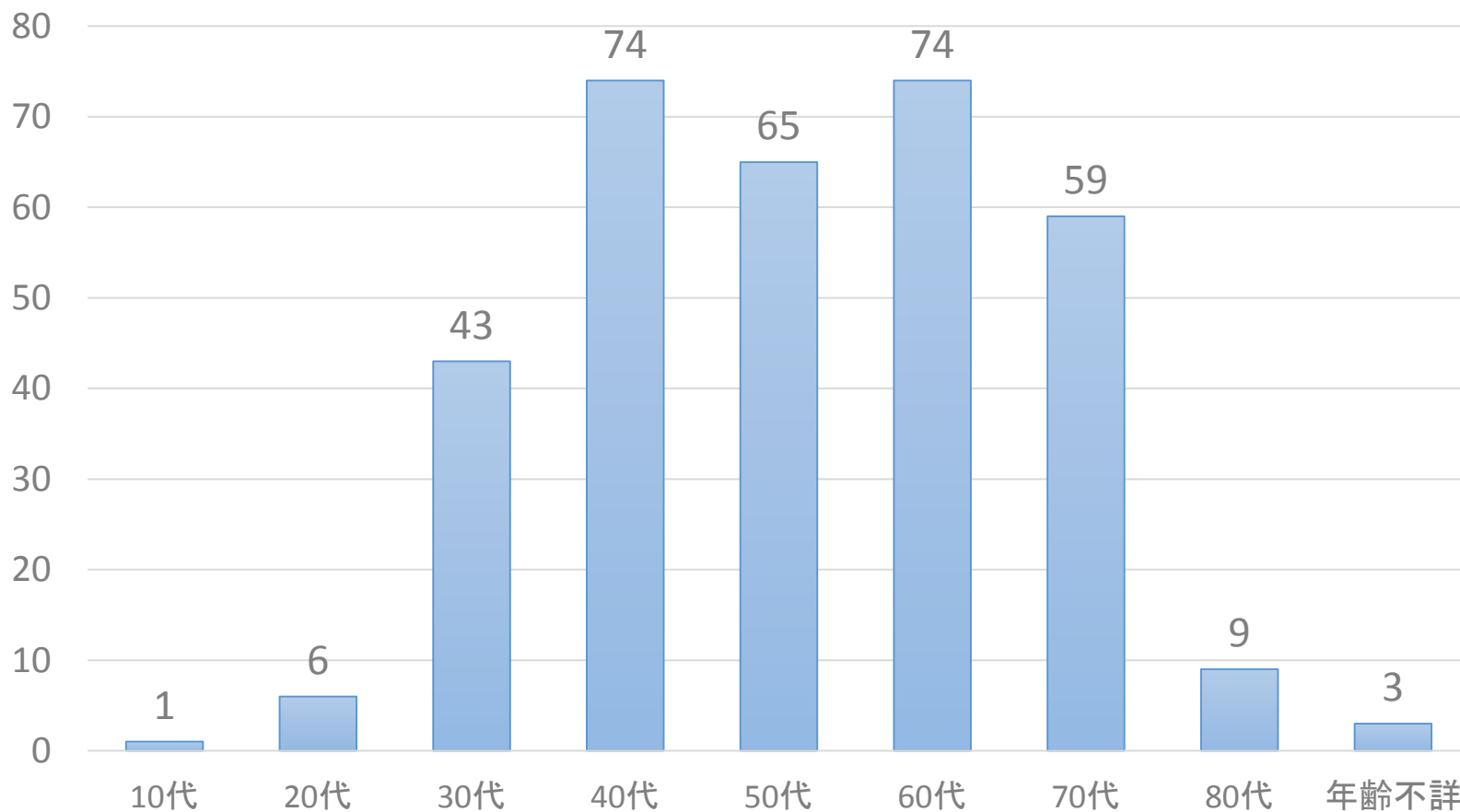
二次調査症例総数	438例
通院していて経過が判る症例	334例
初診後通院されず経過が不明な症例	104例



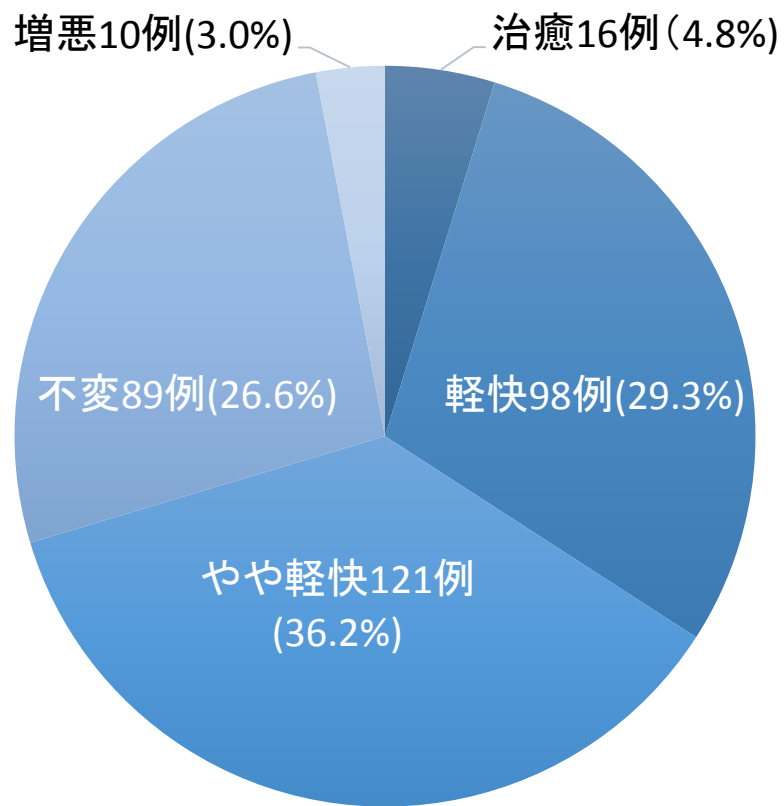
今回は、現在も通院されていて経過が判る症例
(334例)についてまとめた。

設問項目によって記載されていない場合は対象から除外したためn数は項目により多少異なっている。

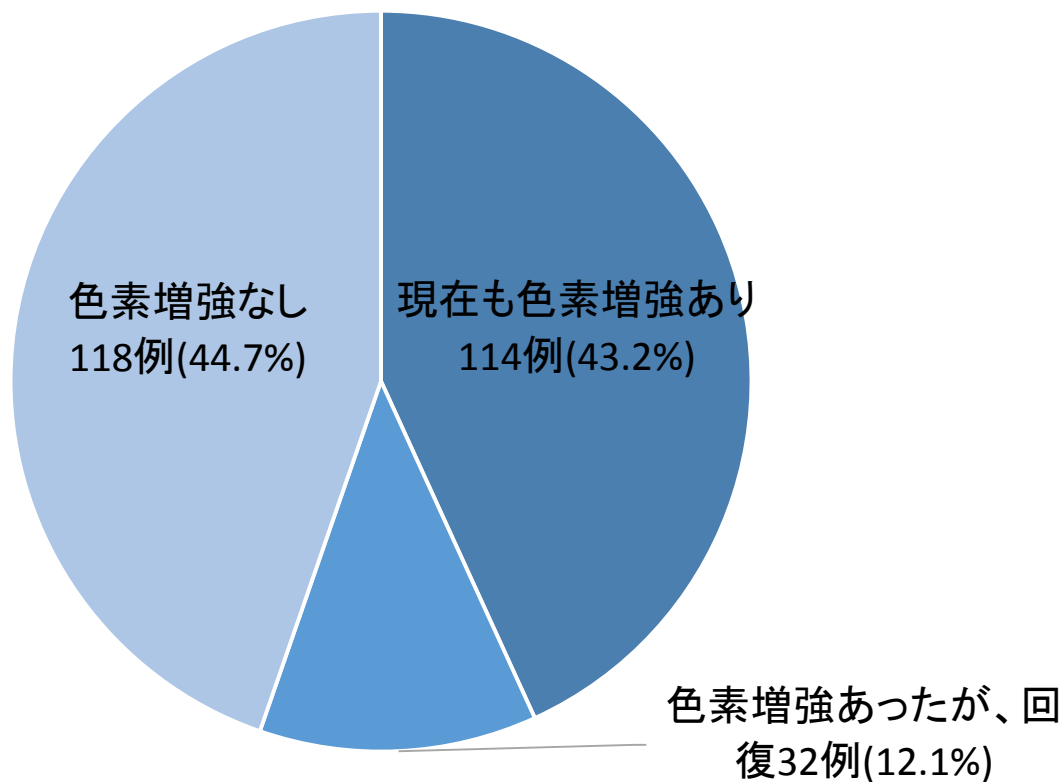
年齢分布（経過あり症例のみ、n=334）



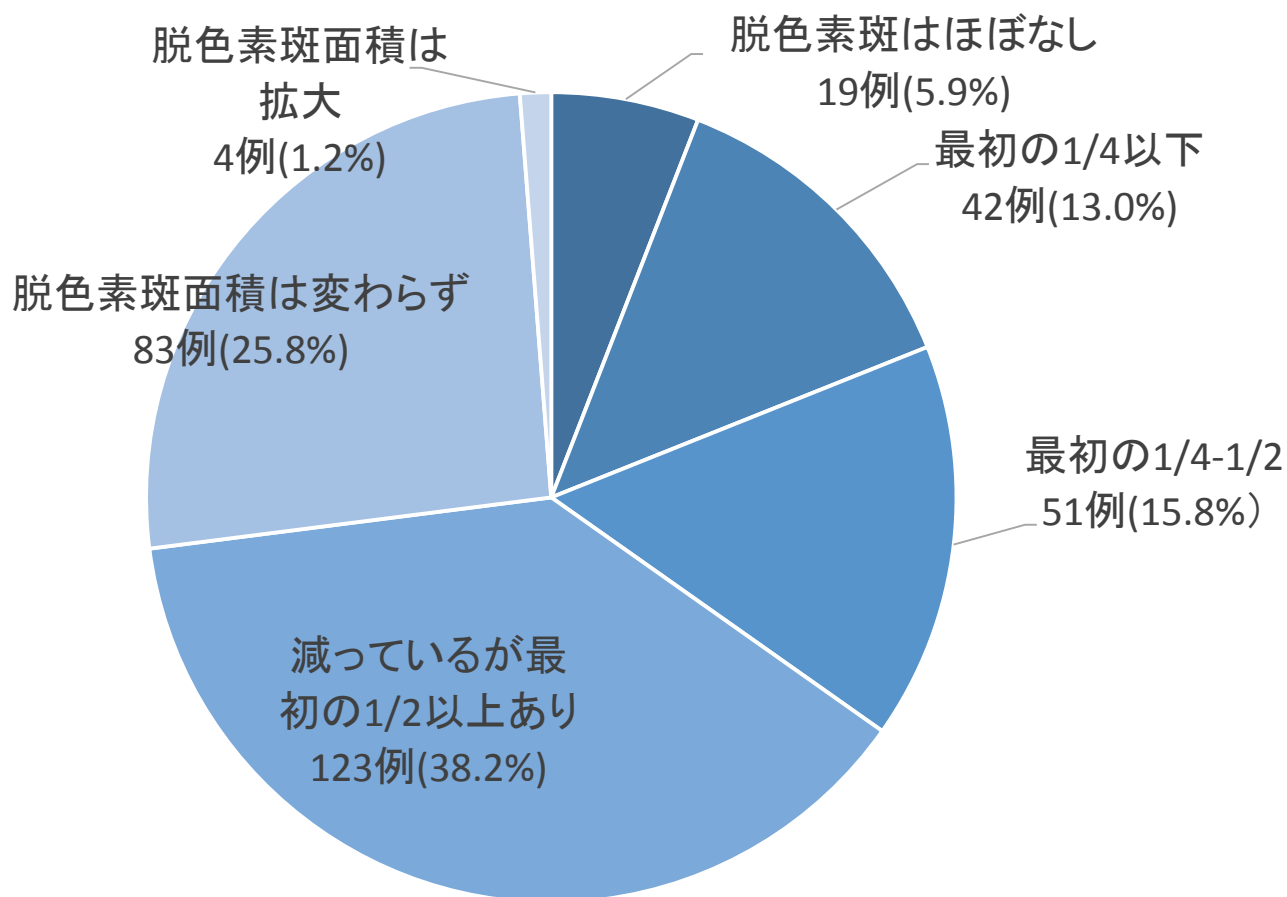
全体の経過 (n=334)



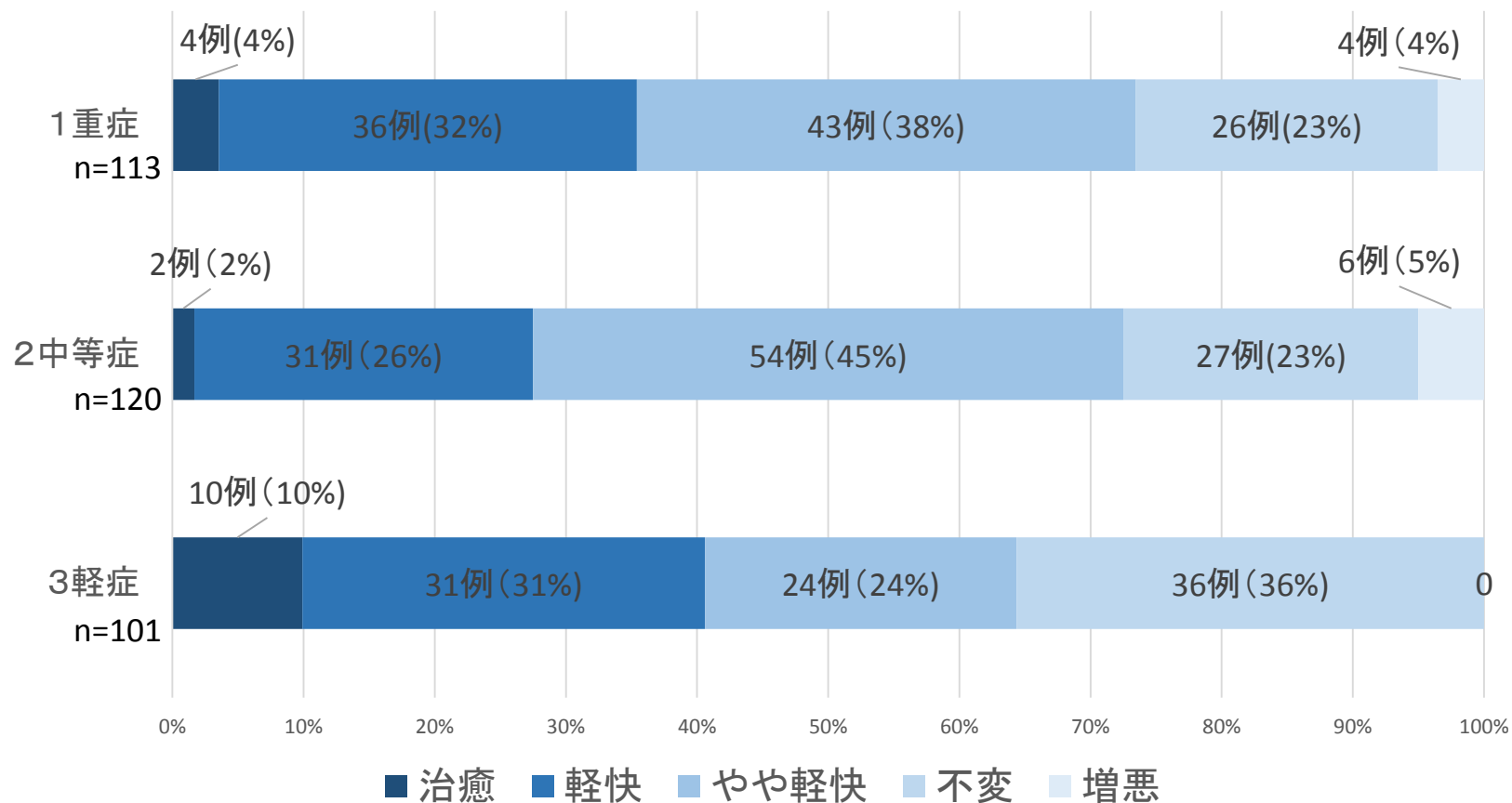
色素の増強の状態 (n=264)



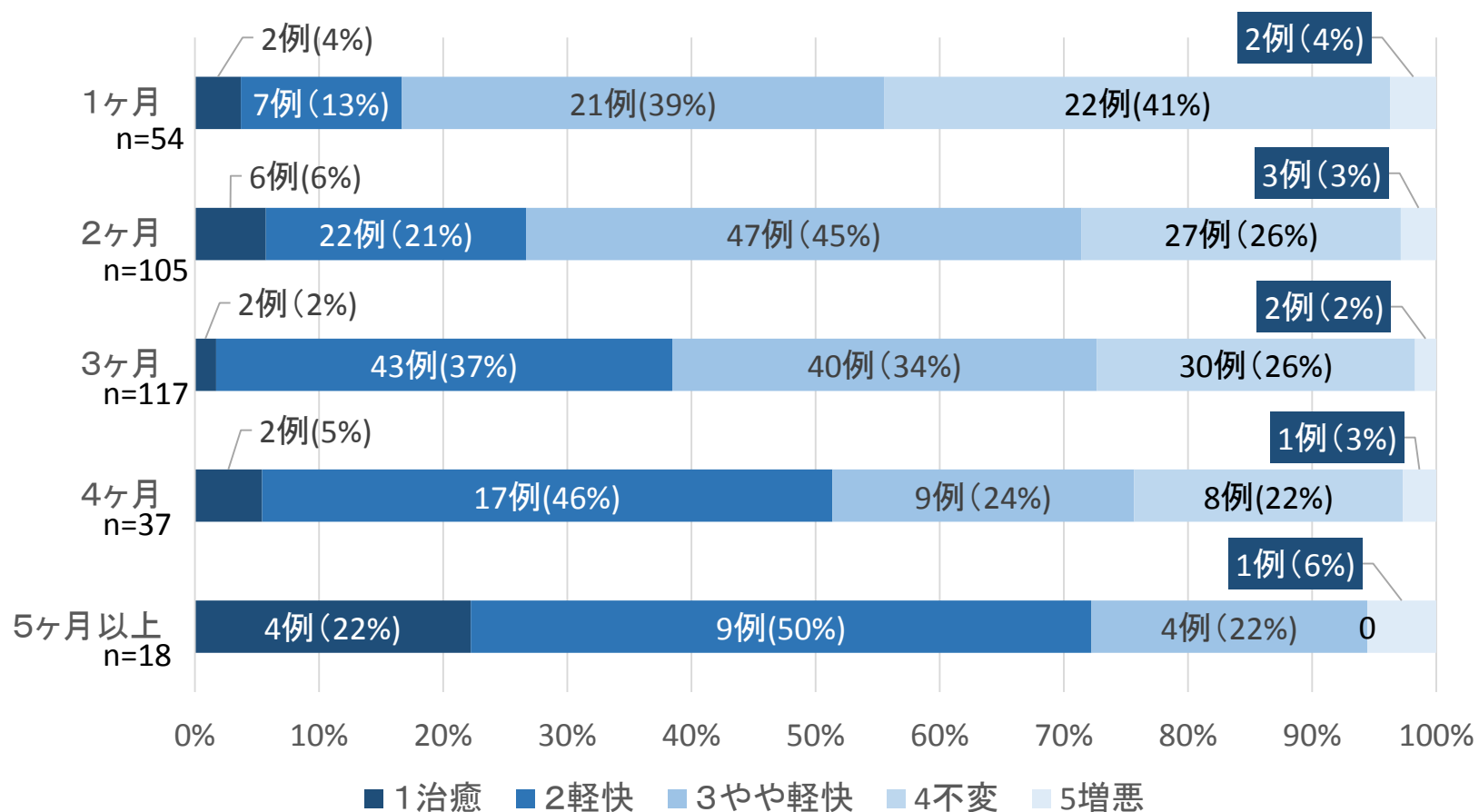
脱色素斑の面積 (n=322)



最初の重症度と経過 (n=334)

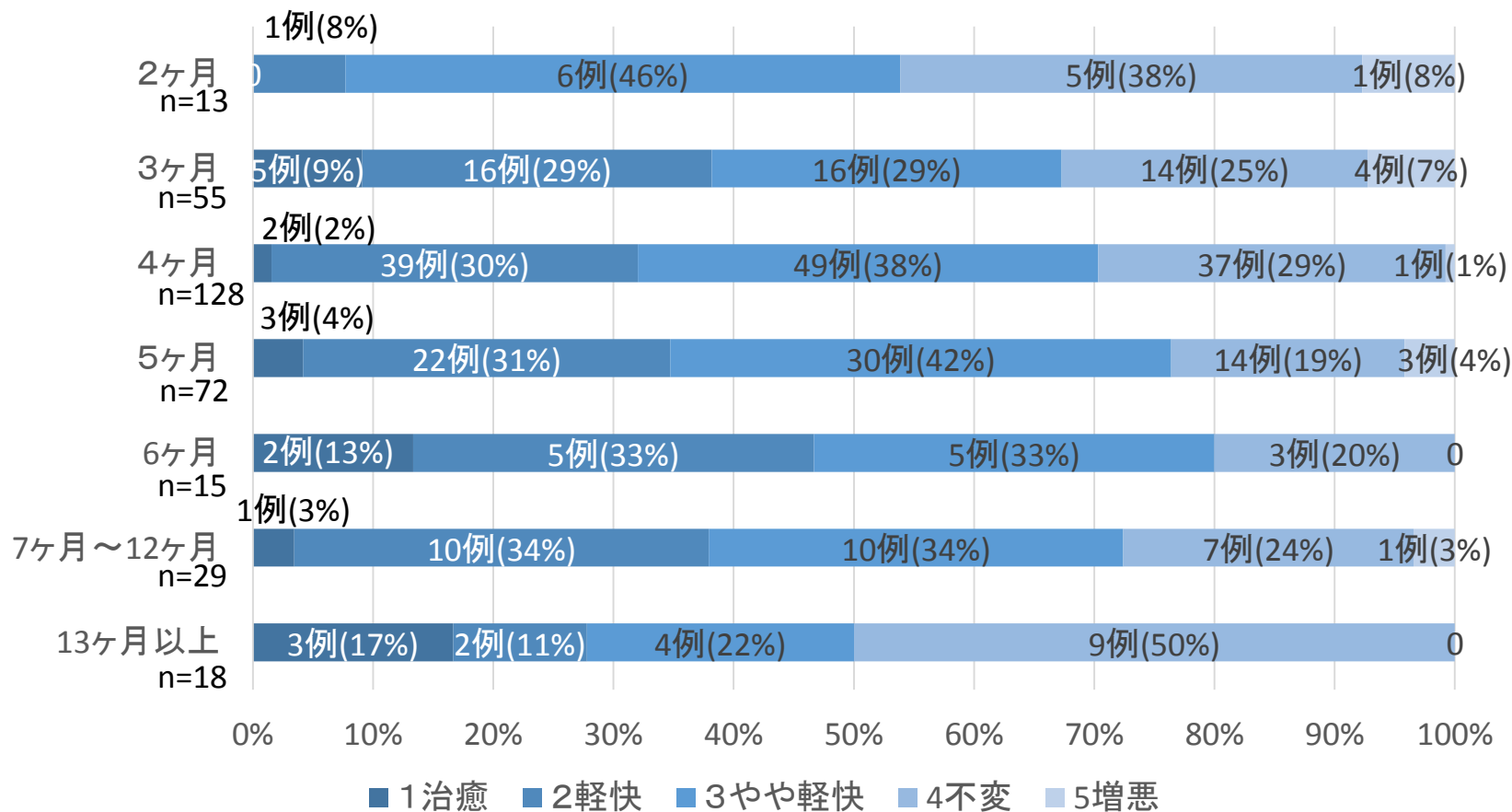


経過観察期間と経過 (n=331)



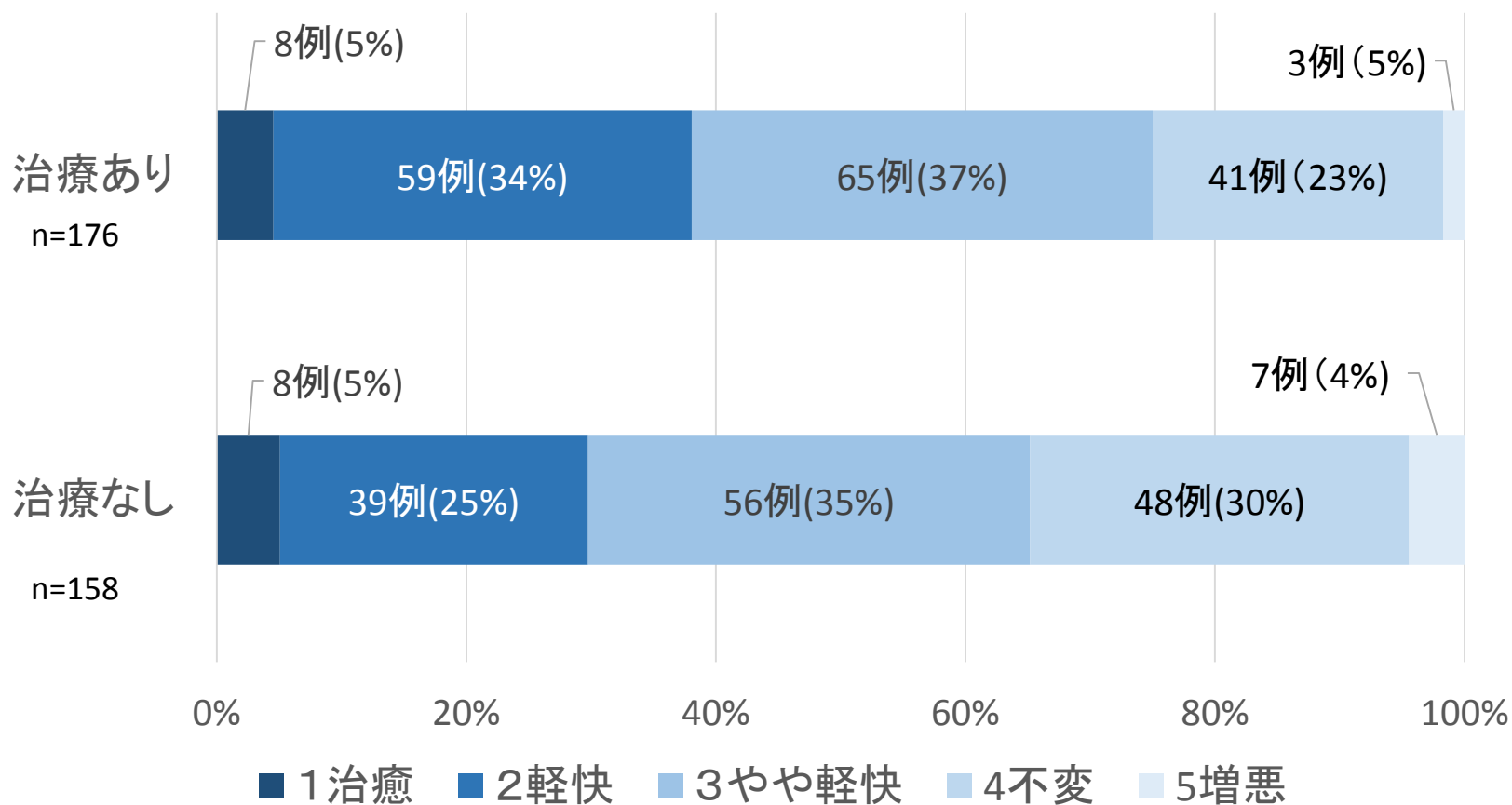
化粧品使用中止期間と経過

(n=330)

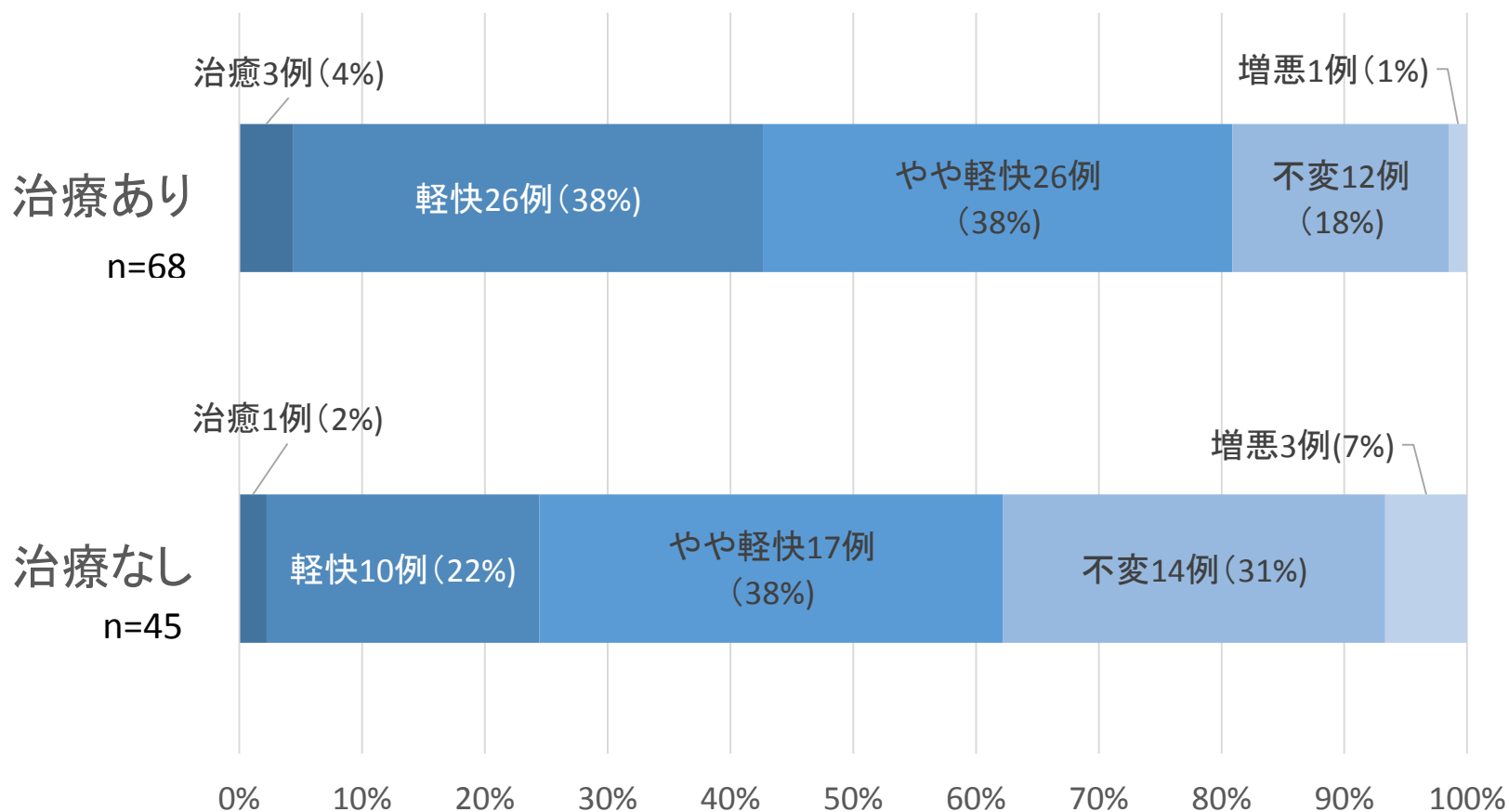


治療の有無による評価と経過

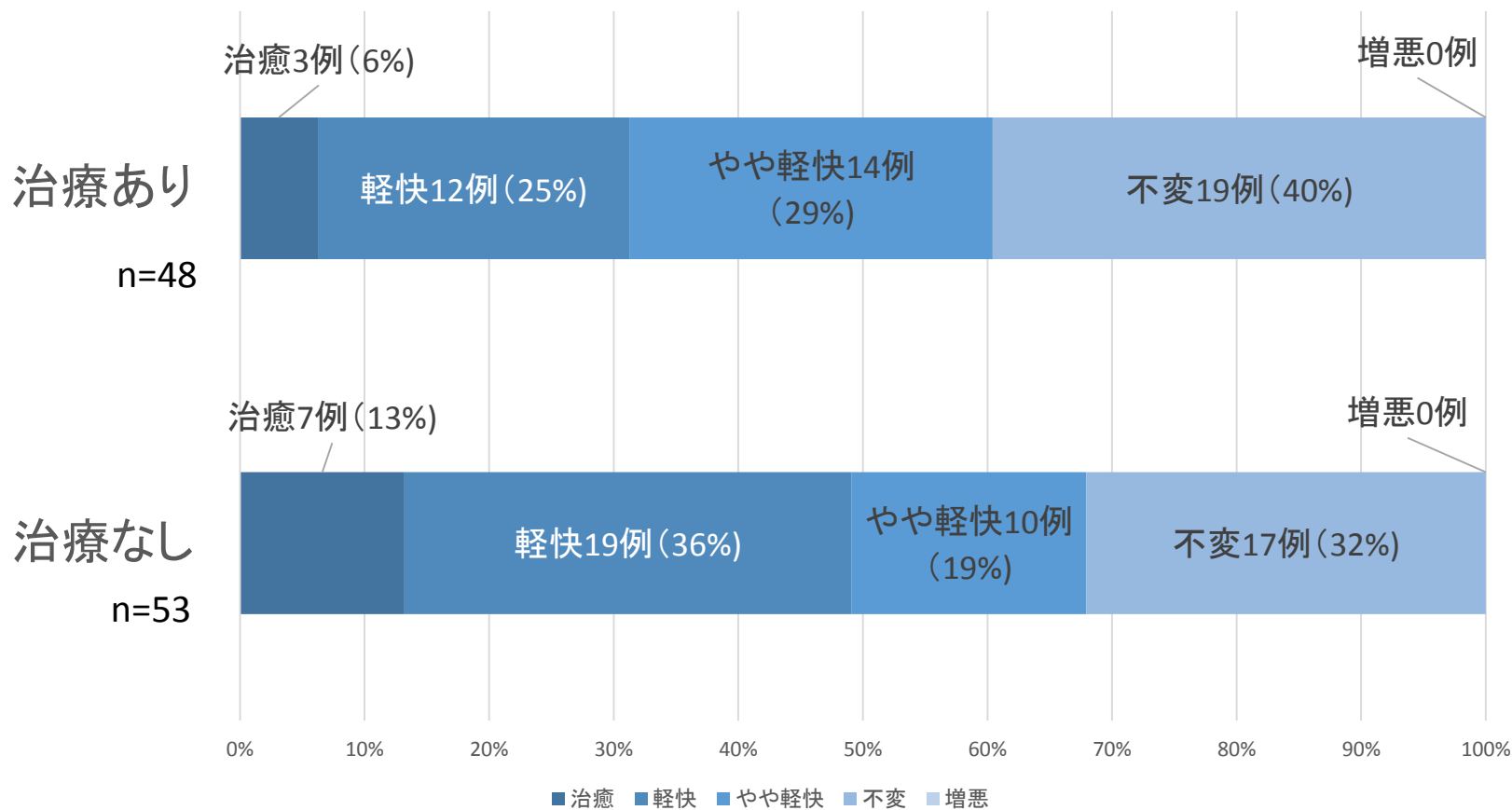
(n=334)



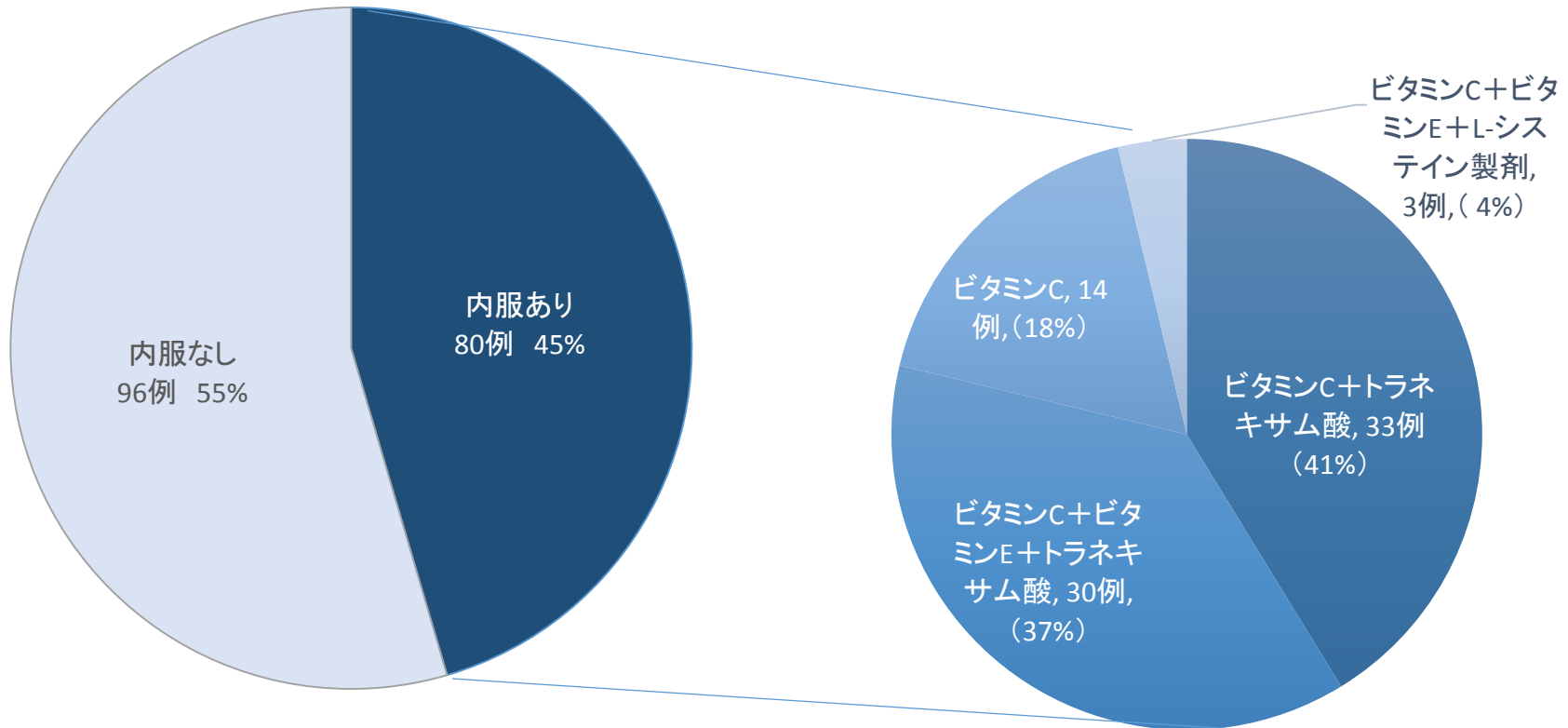
重症例における治療有無での経過の相違 (n=113)



軽症例における治療有無での経過の相違 (n=101)

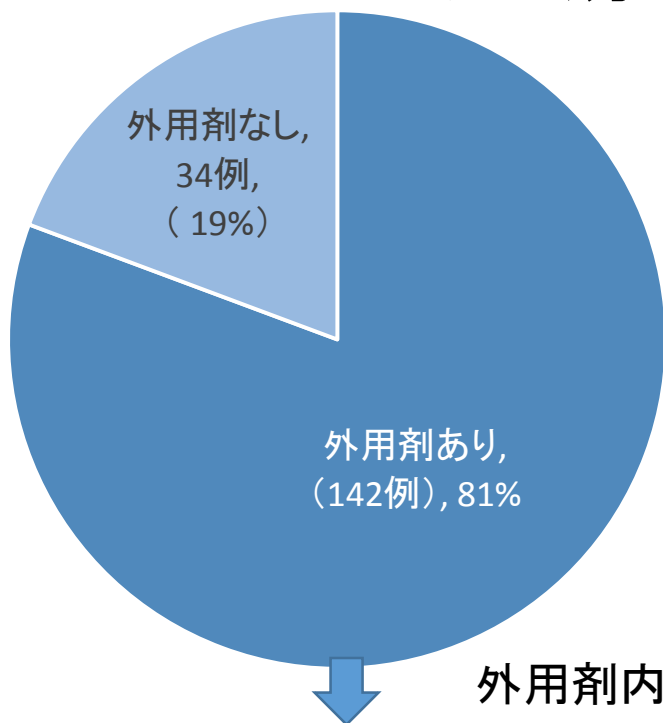


治療あり：内服薬 (n=176)



- ・内服薬はビタミン剤+トラネキサム酸が主で、全例ビタミンCが処方されていた。
- ・抗アレルギー薬投与は80例中9例のみであった

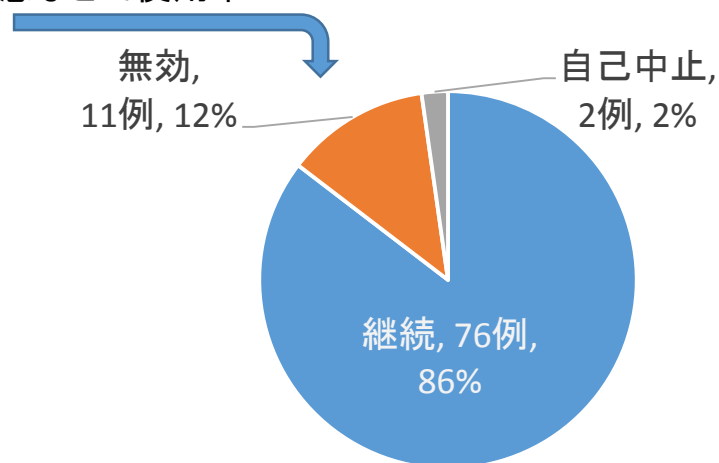
治療あり:外用剤 (n=176)



外用剤内訳

タクロリムス製剤のみ	89例	63%
ステロイド外用剤のみ	29例	20%
タクロリムス製剤+ビタミンD製剤	9例	6%
ビタミンD製剤のみ	8例	6%
タクロリムス製剤+ヘパリン類似物質製剤	3例	2%
ヘパリン類似物質製剤のみ	2例	1%
ステロイド外用剤+タクロリムス製剤+ビタミンD製剤	1例	1%
ステロイド外用剤+タクロリムス製剤	1例	1%

タクロリムス製剤使用例において12%は無効、2%はヒリヒリ感などで使用中止



治療あり: 紫外線療法 (n=5)

紫外線療法は5例(2.8%,5/176)のみに施行され、
いずれもエキシマライトを照射されている。
症例数が少なく、その有効性の評価は困難であった。